

小樽市教育研究所報

環流



第190号 令和6年9月30日

<目 次>

児童の活動：幸小学校……………	P1
巻頭言：草島 拓也 校長……………	P1
環境教育研修講座……………	P2
SSWより……………	P2
小樽市社会科教育研究会の活動……………	P3
初任者の紹介……………	P4



【雪あかりの路 幸会場】↑
校区内の公園を会場に行われ、様々なアトラクションで冬を満喫しました。

【地域と一体となり潮まつりに参加】↓
幸小地域連携隊として約100名で精一杯踊りました。



地域とともにある学校を目指して

小樽市立幸小学校 校長 草島 拓也

本校は令和4年に開校50周年を迎えた、市内でも比較的新しい学校です。昭和47年に、地域の方々の熱い思いに支えられて開校して以来、半世紀にわたって、その思いは地域・保護者にしっかりと受け継がれ、まさに「地域とともにある学校」の中核として、本校児童の健やかな成長を見守ってくれています。その思いは非常に熱く、「子どもたちのために」と惜しみない協力体制で学校を支えてくださっています。校長としての1年目である昨年度は、その熱い思いに圧倒されることばかりでした。地域に根ざした様々な活動に参加させていただき、たくさんの方々と話をする中でみえてきたことがあります。それは、現在そのような活動の中心として活躍されている方のほとんどが、本校の卒業生だということです。大人になっても住み慣れたふるさとを愛し続け、自分たちが経験してきたことを、目の前にいる子どもたちのためにしてくださっていたのです。このような地域で育った子どもたちは、やはり自分たちが大人になったとき、「子どもたちのために」と同じことを考えるのではないのでしょうか。そんな素敵な地域だからこそ、幸小学校の大きな特色でもある、思いやりにあふれ、外遊びが大好きな子どもに育っているのだと思います。

地域とともにある素敵な学校に勤められることに心から感謝し、これからも、校歌の歌詞にあるように「北極星より澄んだ心で、みんな仲よくそろって遊ぶ」幸の子どもたちのために全職員が一丸となって全力を尽くす所存です。

「環境教育研修講座」

～「新版小学校理科教材おたるの自然（デジタル版）」の活用を通して～

7月31日(水),「環境教育研修講座～『新版小学校理科教材おたるの自然(デジタル版)』の活用を通して～」を小樽市教育委員会第1会議室で開催しました。(参加者 32 名)

1 「新版小学校理科教材おたるの自然（デジタル版）」の編集の意図等（指導 G 平口山主査）

- 「新版おたるの自然」は、①教科書と関連付けてあるので授業で活用できる、②小樽で見られる自然を中心に編集し、地域理解を進め興味・関心を高めることができる、③写真や図が豊富で視覚で捉えることができる。
- 「新版おたるの自然」は冊子版から Web 版の作成過程を経てデジタル版の作成に至っている。
- デジタル版は、子どもの学びたい、調べたいという意欲を高める補足的・発展的な学習にも活用することができ、より主体的な学習を進めるために大変有効である。

2 実践事例 1（奥沢小学校 福岡教諭）

- ①生活科の探検場面 デジタル版「草花」にある植物の写真を端末に張り付けてから探検をすると、校庭などの植物と比較することができる。
- ②チョウの観察場面 教科書のモンシロチョウが見つからない場合、おたるの自然に掲載されているエゾシロチョウが観察に適している。
- ③植物の観察場面 いろいろな植物のつくりを見ることができる。オスの花とメスの花を比べてみると、小樽に多く生息するオオイタドリが観察に適している。
- ④川の観察場面 デジタル版に小樽の4つの川の写真や動画が掲載されている。
朝里川は観察が可能であり、実際に子どもを連れて観察するとよい。

*おたるの自然は、コラムが充実しているので、コラムを子どもに読ませることで、興味・関心が広がると思う。ぜひコラムも活用してほしい。

3 実践事例 2（幸小学校 荒木教諭）

- ①地層の学習場面 デジタル版で、川の流れて土が堆積する様子や火山活動で火山灰が積み重なる様子が見られる。また、小樽の9か所の地層の写真を見て、スライドにまとめる学習の様子を紹介した。
- ②修学旅行との関連 有珠山に修学旅行に行く前に、事前学習として「変わり続ける大地」を取り上げる。洞爺湖有珠山ジオパークのウェブサイトも参考になる。
- ③災害の学習場面 小樽の過去の災害の写真を参照しながら、「小樽の防災」を検索し、ハザードマップや避難所までの経路などを調べる学習を取り上げた。
- ④4年生の社会科 屋形船乗船体験に合わせて、港や運河、防波堤について学ぶ際に、大地のつくりを学習した。コラム24や25は大変参考になる。

SSW より 不登校の未然防止「気づきの段階」での観点

□ 生物学的な観点

- 基礎疾患やアレルギーなどの持病はないか ○寝つきが悪い、朝起きるのがつらい、授業中居眠りが多い ○欠食、極端な偏食、過食や拒食傾向 ○頭痛、腹痛、吐き気、倦怠感などの症状を繰り返し訴えている ○発達障害などの傾向や診断がある

□ 心理的な観点

- すぐにカッとなる、イライラする、表情が乏しくなる、泣く、気分の落ち込みなどが高頻度である ○自分を否定する発言が増える ○1人でいることが多い、消極的になった ○集団行動やコミュニケーションが苦手、多動傾向、固執傾向、不注意傾向、感覚過敏 ○特定の科目や単元が極端に苦手

□ 社会的な観点

- 学校になじめない、規則を守れ(ら)ない ○子ども間の対立、いじめ、騒ぐ子どもがいるなどの授業環境の悪さ、教師に対して反抗的な学級風土 ○家族間の不和、介護や看病を要する家族の存在、兄弟間の保護者の対応の格差、経済面の問題、虐待の疑い、保護者の不在
※参考になればと思い載せました。

＜研究交流団体の実践紹介：小樽市社会科教育研究会＞

（会長：小樽市立手宮中央小学校長 小寺 友興）

「郷土に夢と誇りをもち、未来を拓く子どもの育成」

～地域とのかかわりの中で、自らの課題を追究し主体的・対話的に学びつづける子どもを求めて～

1 はじめに

小樽市社会科教育研究会は今年度4名の新規会員を迎えて、総勢12名で令和6年度のスタートを切ることができた。昨年度来の課題であった一般職の会員数を増やすことができ、今後の活動がより一層充実したものになると感じている。今年度も後志社会科教育研究協議会や、北海道社会科教育連盟などの組織と連携を図り、本会の研究主題である「郷土に夢と誇りをもち、未来を拓く子どもの育成」の実現に向けて活動していく。

2 研究内容

＜研究仮説＞

郷土（小樽・北海道）の素材を生かした授業を構築することにより、児童・生徒の主体的な社会認識が効果的に養われ公民的資質が育てられるとともに、1人1台端末や様々な資料を活用することで自らの課題を解決するための多面的な見方や考え方が身に付けられるだろう。

本会の研究仮説は上記の通りである。毎年継続して研究授業を行い、授業の質を高める取組を行っている。小学校と中学校で交互に取り組むことで、小・中いずれにおいても持続可能な内容となるよう計画的に取組を進めている。令和6年度は潮見台中学校で11月頃の実施を予定している。

授業づくりにあたっては、研究仮説にあるように郷土、特に小樽市の素材を生かした授業を構築することで児童の興味・関心を高め、主体的に学びに向かう姿勢を引き出すこと、また、対話を通して社会的事象に対する多面的、多角的な見方・考え方を身に付けられることを意識している。小樽市には、歴史的、文化的に大変貴重な建物や遺構などが数多くあり、普段何気なく目にしたり接したりしている物の中にも沢山の魅力溢れる素材がある。それらを教材化して授業に取り組むことを通じて、以下の「視点」に掲げる内容の達成を目指し、研究に取り組んでいる。

＜研究の視点＞

- ・ 地域の人々や物事とかかわり課題を発見し追究する子どもの育成
- ・ 社会の営みの中から公民的資質を養い社会的実践につなぐ教材の開発
- ・ 基礎・基本を明確にしつつ地域の素材を活用し、学習内容の構造的な分析



昨年度の研究授業の様子

＜後志社会科教育研究協議会との連携＞

8月20日（火）に余市町公民館で行われた後志社会科研究協議会の主催する夏季合宿学習会に、本会より2名が参加した。東北学院大学文学部教育学科の佐藤正寿教授による講演など、大変有意義な内容であった。今後の部会の中で、学習会の環流を行う予定である。今後も、よりよい社会科の授業づくりに向けて、連携を深めていく。

3 終わりに

前述した通り、本市には過去の様々な年代における大変貴重な歴史的、文化的な建造物や遺構が今でも多く存在するなど、社会科の学習に生かすことができる素材がたくさんある。それらの価値ある地域素材を、授業の「どの場面で」「どう取り上げ」「どのように活用するか」ということが、地域素材を活用した授業づくりにおいては重要であると考えます。児童・生徒が、社会的な見方・考え方を働かせながら主体的に学ぶとともに、ふるさと小樽に対する誇りと愛情をもち、未来をたくましく切り拓くための資質・能力を育むことができる社会科の授業づくりを目指して、今後も研究を進めていきたい。

（執筆者：事務局長 斎藤 傑）

<令和6年度 初任者紹介・その2> 今回も6名を紹介します。

小樽市立潮見台中学校 教諭 大澤 賢 恭



今年度より小樽市立潮見台中学校に赴任しました。生徒の温かい笑顔に助けられる日々です。毎日の技術の授業がとても楽しくできています。また、日々ご迷惑をおかけしているにも関わらず潮見台中の暖かい職員の皆様に支えて頂いています。保護者の皆様並びに地域の皆様に学校教育を支えて頂いていることに日々気づいています。今後も保護者の皆様並びに地域の皆様と密接に連携を深め、生徒のために一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。

小樽市立銭函小学校 教諭 山本 妹佳



母校である銭函小学校に、スクサポの勤務を経て、教員として改めて携わることができ、とても嬉しく感じています。3年生の担任として、立場が変わり、責任感がぐっと高まったことで、戸惑いもありましたが、子ども達から、ハートがいっぱい描かれた手紙をもらったり、かわいい笑顔を見たりするたびに、この仕事でしか得ることのできない幸せを感じます。今後も、自分らしく真っ直ぐに、子どもと向き合いながら頑張りたいと思います。

小樽市立望洋台小学校 教諭 大西 唯斗



4月から小樽市立望洋台小学校に新採用として着任しました。初めてのことばかりで戸惑うことも多いですが、周りの先生方や子どもたちに支えられて充実した毎日を過ごしています。一人一人と向き合い、全員と毎日コミュニケーションをとることを大切にして、一歩ずつ児童とともに成長していけるよう努力してまいります。よろしくお願いいたします。

小樽市立朝里中学校 教諭 玉村 瑞



今年度より小樽市立朝里中学校に着任しました。母校に着任し、懐かしさを感じながら日々の生活を送っています。1学期は、教科指導・生徒指導を中心に、多くのことを吸収することができました。一方で、自身の力不足も日々感じながら過ごしていました。2学期以降も1学期の学びを生かしながら、より一層学びのある日々を送っていきたいと思います。少しでも早く学校の力になれるように頑張ります。よろしくお願いいたします。

小樽市立桜小学校 教諭 小柳 怜



今年度より新採用として小樽市立桜小学校に着任しました。この4ヶ月は初めての経験ばかりで、戸惑うことも多くありましたが、先生方の温かいご指導や励ましの言葉をもらい、充実した毎日を過ごすことができました。子どもたちからの「楽しい」「分かった」「おもしろい」という言葉をエネルギーに変えて、教師として成長していけるよう、日々学んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

小樽市立朝里小学校 教諭 佐藤 美涼



私はこのたび、小学校教員としての第一歩を踏み出すことになり、大きな喜びとともに教育者としての責任を強く感じています。私が教員としての責任を果たすために大切にしたいことは、学び続ける姿勢を持つことです。その為にも、常に新たな教育方法や知識を取り入れるという意識を大切にしながら、日々の教育活動に取り組み、子どもたちが楽しく安心して学校に通うことができるよう努めていきたいと思っています。